

データ収集源

評価の焦点を決定した時点で、各焦点領域について評価課題が作成され、各評価課題について指標が作成され、各指標についてデータ収集源を特定しなければなりません。その名称の通り、「データ収集源」とは、各指標について、どこで情報を集めるかを表します。評価に用いられる情報は、一般に定量的データ（すなわち、総数や評価スコアなど、数字による所見）と定性的データ（例えば、面接ノートまたは書面によるプログラム記録など、説明的な所見）の2種類の組合せです。各指標について、2つ以上のデータ収集源が情報を提供する可能性があることに留意して下さい。ある例では、管理データベースまたはBRFSSのような調査監視システムなど、既存のデータ収集源を使うことができます。

被交付者が CCC プログラム評価に使用しているデータ収集源にはどのような例がありますか？

データ収集源の例としては、以下のような例が挙げられます。

- 調査と調査監督システム（例えば、行動危険因子サーベイランスシステム[BRFSS]、青少年危険行動調査[Youth Risk Behavior Survey, YRBS]、および州またはプログラムが作成した調査または調査監視システム、ならびに特定の介入に対して計画されたテスト前とテスト後調査）
- がんレジストリ（例えば、全米がん登録プログラム[National Program of Cancer Registry, NPCR]および/または Surveillance, Epidemiology, and End Result [SEER] による資金提供を受けるレジストリデータ）
- 全米と州の人口動態統計（例えば、米国人人口動態統計報告[National Vital Statistics Reports]を通じて報告された人口統計登録システムデータ）
- プログラムの文書（例えば、協力関係メンバー名簿、ミーティング参加記録、合意についての覚書、財務記録、成果分配記録）
- 重要な情報提供者またはフォーカスグループとの面接（例えば、プログラムのスタッフまたは他の重要な人物との議論の記録）
- 観察（例えば、協力関係ミーティングまたは勤務成績）

新しいデータ収集ツールのパイロットテスト

あなたのプログラムが、データ収集を導く調査、面接またはフォーカスグループを開発している場合、これらのツールが使いやすく、また目的とする情報を獲得することを確認するために、パイロットテストを必ず行うようにして下さい。多くの例では、データ収集ツールは、パイロットテスト

データ収集方法

評価の焦点、課題、指標およびデータ収集源が特定されたら、適切なデータ収集方法を選ぶ必要があります。私たちは、データをどのように収集するか、いつ収集するか、誰がデータ収集を担当するかを意味して「データ収集方法」という用語を使います。表6は、協力関係の評価課題のためのデータ収集方法の説明の例を示します。

表6 協力関係評価課題のためのデータ収集方法の例

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期
協力関係	強力な CCC 協力関係を築いたか	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングの出席率 代表を出しているセクターの種類と数 主要な対象グループの代表性 パートナーによる貢献の種類と数 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム記録 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム・コーディネーターが CCC 連合データベースから関連データを要約 	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回（年度の6ヶ月目と年度末）
計画	計画は意図したとおり実施しているか？	<ul style="list-style-type: none"> CCC 計画の目的が意図されたように実施されている程度 CCC 計画に関連する活動を実施する CCC のメンバー組織の数 	<ul style="list-style-type: none"> CCC 計画 プログラム記録—理解、契約、メンバーの活動を追跡するシステムに関する覚書 	<ul style="list-style-type: none"> 評価者がプログラム記録および/またはデータベースからデータを要約 評価者が CCC メンバーに調査する（ウェブを通じて） 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、プログラム記録を要約 年1回、CCC メンバー組織の調査
プログラム	日光に関する新しい安全介入は、参加者の知識と行動を意図したように改善しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 教育セッション前の個別参加者の日光に関する安全知識と行動 教育セッション後の個別参加者の日光に関する安全知識と行動 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な情報提供者：日光に関する安全教育を受けている参加者 	<ul style="list-style-type: none"> 教育担当者が書面による匿名の事前、事後調査を実施 教育担当者が電話インタビューによる追跡を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各教育セッションの前と直後 介入の3ヶ月後

正しいデータ収集方法をどのように特定するか？

下記のような、適切なデータ収集方法を検討して下さい

- 可能な限り一番直接的な方法で必要な情報を収集し、
- あなたが自由に使える所定の評価リソースにより、プログラムが実行可能なものであり、
- プログラムのスタッフ、パートナー、および介入参加者への負担を最小限にし、
- 慎重に扱うべき情報の機密性と保護を確保し、
- 偏りのない、正確で信頼できる結果を実現し、かつ
- 評価課題に答えるために十分な関連性と感度がある方法。

データ解析方法

データ収集方法の特定に加えて、データ解析方法を指定する必要があります。私たちは、どのようにデータを認識し、操作し、解釈するか、また誰がデータ解析の責任を持つかを意味して「データ解析方法」という用語を使います。

どのレベルのデータ解析が十分か？

関連する評価課題に取り組むためには、データ解析方法は十分に厳密である必要があります。さらに、あなたが選択したデータ解析方法の妥当性を説明できるように準備しておく必要があります。評価知見を報告する場合には、選択した方法の短所と長所に留意して下さい。一部の評価課題は、例えば以下に挙げる、基本レベルのデータ解析の実施が必要だけです。

- スプレッドシート（Microsoft Excel など）にデータを入力する。
- データの欠落または変な入力をチェックし、訂正する。可能であれば、使用できないデータを削除し記録する。
- データを統計ソフトウェアプログラム（SPSS または SAS）にインポートする。
- 指標に基づいて合計、頻度数、およびパーセンテージを算出する。一部の指標については、データを、合計とパーセンテージを計算する前に興味がある変数に基づいて層別化するかグループ化する必要があることに留意して下さい。⁹

プログラムの活動（例えば、トレーニングまたは介入業務の提供）と求められる成果（例えば、知識、考え方、行動、ヘルスケア・システム、または健康状態の変化）との間の関連に関する評価課題には、比較（例えば、t 検定を用いて）または回帰分析の手法などのさらに高度な統計解析が必要です。評価利害関係者または州の衛生局のスタッフがより高度なレベルの解析を提供することができるかもしれません

⁹ 調査デザインが複雑である（すなわち、単純無作為標本または母集団の全数サンプリング[全列挙]以外のデザイン）BRFSS などの調査については、加重パーセンテージと正確な信頼区間を得るために、調査デザインを解析の考慮に入れる統計ソフトウェアを使う必要があります。ソフトウェアの一部の例としては、SAS、SUDAAN、Stata、そして SPSS があります。

定量データ解析と同様に、定性データ解析において適切な方法を適用することが重要です。基本的なレベルの定性データ解析としては、以下が挙げられます。

- 録音を書き起こす、または調査の説明的なコメントをワードプロセッサーまたは定性データ解析プログラムに入力する。
- 文章を厳密に読み、符号化する（すなわち、文章中に認められる重要なテーマを強調する）。
- 文章をテーマによってグループ分けし、次に、より高次のテーマ内にサブテーマまたは重要な問題が現れているかを判断するためにデータを再検討し、符号化する。

さらに高度なレベルの定性データ解析は、事例内解析と事例間解析および多重暗号の使用と評定者間信頼性の算出を伴います。この場合もやはり、評価利害関係者または州の衛生局のスタッフがより高度なレベルの解析を用いて支援することができるかもしれません。

評価計画のためのツールとテンプレート

このセクションでは、上に挙げた情報を各プログラムに当てはめるうえで役立つツールを示します。まず、白紙テンプレートのワークシートを、次に参考として記入済みのテンプレートを示します。

ツールとテンプレート：評価の計画と方法用マトリックス（白紙テンプレート）

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期	データ解析
評価を行う CCC の構成要素	明らかにしたい点	評価課題に取り組むために必要なデータの種類	どこでデータを手に入るか	どのようにデータを手に入るか	いつデータを手に入るか	データをどのようにまとめ、解釈するか

ツールとテンプレート：評価の計画と方法用マトリックス（記入例）

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期	データ解析
評価を行う CCC の構成要素	明らかにしたい点	評価課題に取り組むために必要なデータの種類	どこでデータ入手するか	どのようにデータ入手するか	いつデータ入手するか	データをどのようにまとめ、解釈するか
協力関係	強力な CCC 協力関係を築いたか？	<ul style="list-style-type: none"> 代表を出しているセクターの種類と数 主要な対象グループの代表性 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム／連合記録 パートナー（自己報告） 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム・コーディネーターが CCC 連合データベースから関連データを要約 	<ul style="list-style-type: none"> 年 4 回の要約 年 1 回の調査 	プログラム評価者 <ul style="list-style-type: none"> 各セクターと対象グループにおける、パートナーの総数と割合 ミーティングへの参加パートナーの割合の時間的経過 様々な貢献を提供するパートナーの総数と割合 プログラム記録と調査データの照合

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期	データ解析
評価を行う CCC の構成要素	明らかにしたい点	評価課題に取り組むために必要なデータの種類の	どこでデータを入手するか	どのようにデータを入手するか	いつデータを入手するか	データをどのようにまとめ、解釈するか
計画	CCC 計画の実施は成功したか？	<ul style="list-style-type: none"> CCC 計画の目的が意図されたように実施される程度 CCC 計画に関連する活動を実施する CCC のメンバー組織の数 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムデータ—CCC 計画 プログラムデータ—MOU、契約、メンバーの活動を追跡するシステム 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム評価者がプログラム記録および/またはデータベースから要約 プログラム評価者が CCC メンバーを調査（ウェブを通じて） 	<ul style="list-style-type: none"> 年 1 回、プログラム記録の要約 年 1 回、CCC メンバー組織の調査 	プログラム評価者： <ul style="list-style-type: none"> 実施された CCC 計画の目的の数 CCC 計画に関連する活動を実施していると報告する CCC メンバーの数 CCC メンバーにより実施された CCC 計画活動の数
	CCC 計画の活動は証拠に基づき、文化的に適切であるか？	<ul style="list-style-type: none"> 証拠に基づいて実施された CCC 計画活動の数 文化的に適切に実施された CCC 計画活動の数 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムデータ—プログラム報告書、MOU、契約、証拠に基づいた介入を追跡するシステム プログラムデータ—プログラム報告書、MOU、契約、文化的および言語的に適切な業務（Culturally and Linguistically Appropriate Services, CLAS）の基準を満たす活動を追跡するシステム 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム・コーディネーターがプログラム記録またはデータベースからデータを要約し、がん対策のための証拠に基づく診療のリストと CLAS 基準と比較 	<ul style="list-style-type: none"> 年 1 回の要約（CCC 計画と実施手段に変更がない場合は、さらに低頻度で） 	プログラム・コーディネーター： <ul style="list-style-type: none"> 証拠に基づいた CCC 計画活動の数 CLAS 基準と一致する CCC 計画活動の数

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期	データ解析
評価を行う CCC の構成要素	明らかにしたい点	評価課題に取り組むために必要なデータの種類	どこでデータを入手するか	どのようにデータを入手するか	いつデータを入手するか	データをどのようにまとめ、解釈するか
プログラム	<p>日光に関する新しい安全介入は、知識と行動を改善するか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育セッション直後に日光に関する安全知識は改善したか？ 教育セッション後に知識が残っていたか？ 日光に関する安全教育を受ける参加者のうち、日焼け止めまたは保護衣を使用したと示した人の割合は、テスト前からテスト3ヶ月後で増加したか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 教育セッション前の参加者個人の日光に関する安全知識と行動 教育セッション後の参加者個人の日光に関する安全知識と行動 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者（自己報告） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育担当者が書面による匿名のテスト前、テスト後調査を実施 教育担当者が電話インタビューによる追跡を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各教育セッションの前と直後、および介入3ヶ月後 	<p>プログラム評価者：</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識を評価する各調査問題についてのテスト前後の割合（差のパーセンテージとt検定） 行動を評価する各調査問題についてテスト前とテスト3ヶ月後の割合（差のパーセンテージとt検定）

評価の計画と方法作成ためのチェックリスト

- 評価の取り組みの焦点を決定するために、主要な利害関係者と協力する。
- 各評価焦点領域について、具体的な評価課題を作成する。
- 各評価焦点領域について、適切な指標とデータ収集源を特定する。
- データ収集の現実的な予定と実行可能な適切なデータ解析計画を定める。
- 重要なデータの収集と解析活動の指揮者を特定する。

知見の普及と活用



このセクションは、CCC プログラムの評価知見の共有と活用に関するガイダンスを提供します。以下の点で役立つことを目的としています。

- 評価報告の重要な構成要素を特定する。
- 誰と評価結果を共有するか、またいつ、どのように知見を共有するかを決定する。
- 評価知見がプログラム改善の取り組みへの情報提供に確実に活用されるように、プログラム責任者に各ステップを説明する。
- このセクション（55 と 56 ページ）に提供されるツールを用いて、これらのスキルを適用する。

評価方法と知見を関係する情報の受け手に時宜を得た偏りのない一貫した方法で伝えるプロセスで普及するには、実践的で独創的な方法を用いるよう被交付者に推奨します。プログラムスタッフは、評価プロセスにおいて、プログラムの改善と拡大の取り組みに確実に情報提供するためにどのステップを利用するかについて、前もってブレインストーミングを行う必要があります。

評価知見の普及と活用についての計画は、利害関係者と連携し、プログラムについて説明し、また評価計画に焦点を絞るという前の取り組みに基づいて進めます。プログラム、利害関係者の興味、評価優先順位および活動の明確なイメージを持つことが、評価知見の共有と活用のための適切な手段を特定するのに役立ちます。普及に向けた最初のステップは、効果的な報告です。

報告

評価知見をどのように報告したら良いか？

評価結果を要約し報告するには、以下に挙げるようないくつかの選択肢があります。

- 詳細な評価報告
- 評価報告の要旨
- スライドによるプレゼンテーション
- ブリーフィング
- 冊子
- ウェブサイト
- ニュースレターの記事、または
- ラジオまたはテレビへの出演

この選択肢の多くは、電子形式またはハードコピー形式で公開することができます。

普及についての実践的な検討

評価知見の普及には時間、スタッフ、予算といったリソースを要することに留意して下さい。しかし、リソースが限られたプログラムであっても、効果的な普及手段を作成し、実行することができます。例えば、既存の連合ミーティングでのスライドによる簡単なプレゼンテーションは、評価知見を共有する効果的な方法です。

詳細な評価報告には、どの情報を含めるべきか？

利害関係者と共に完全な知見報告書を起草してまとめ、次に詳細な報告書から抜き出して特定の受け手に合わせた、より簡潔な結果文書を作成すると役立つかもしれません。一般に、詳細評価報告書は以下の説明を含める必要があります。

- 評価の背景と目的
- 評価の方法
- 評価の結果と制約
- プログラム改善のための提言



評価報告書を作成する際のヒントとして、下記の「効果的な評価報告書作成のためのチェックリスト」を参照して下さい。

また、Western Michigan University (ウェスタン・ミシガン大学) の Evaluation Center のウェブサイトもご覧ください。無料の評価報告書チェックリストがあります。

<http://www.wmich.edu/evalctr/checklists/checklistmenu.htm>

(「Evaluation Management」のヘッダー下の reports のリンクをクリックして下さい。)

報告のためのツールとテンプレート

このセクションでは、上に挙げた情報を各プログラムに当てはめるうえで役立つチェックリストを示します。

ツールとテンプレート：効果的な評価報告書作成のためのチェックリスト¹⁰

- 対象とする利用者が使用するのに間に合うように、中間報告書と最終報告書を提供する。
- 情報の受け手を関与させることで、報告書の内容、形式、およびスタイルが情報の受け手に合うように調整する。
- 要旨を含める。
- 利害関係者の特徴と連携手段の概要を示す。
- プログラムの骨子を（例えば付録に）記載する。
- 評価の焦点とその制約について説明する。
- 評価計画と手順の十分な要約を含める。
- 必要な全ての技術的情報を（例えば付録に）提供する。
- 評価判断のための標準と基準を明記する。
- 評価判断とどのように証拠に裏付けられているかを説明する。
- 評価の長所と欠点の両方を列挙する。
- 活動のメリットとデメリット、および資料の解釈と共に提言について話し合う。
- プログラムのクライアントおよびその他の利害関係者に対する保護を確保する。
- この知見によって人々や組織がどのような影響を受ける可能性があるかを予想する。
- 必要があれば、少数からの意見または返答を提示する。
- 報告書が正確で公平であることを検証する。
- 報告書を論理的に整理し、適切な詳細を含める。
- 専門用語を排除する。
- 実例、イラスト、グラフ、および記事を使用する。

¹⁰ Adapted from Worthen, B. R., Sanders, J. R., & Fitzpatrick, J. L. (1997). Program evaluation: Alternative approaches and practical guidelines (2nd edition). New York, NY: Addison, Wesley Logman, Inc

普及

プログラム評価の管理は、普及手段の計画と実施を伴います。知見の活用を支援するためには、知見を評価利害関係者（すなわち、プログラムによる投資を受けた、評価の結果に興味を持つ、および／または評価結果を用いて行われることと利害関係がある、人々または団体）と共有する必要があります。評価利害関係者との知見の共有に加えて、結果を一般市民または CCC 関連の介入への参加者と共有することによるプログラムの宣伝を望むかもしれません。

評価の文書化は必要ですが、公式な報告書は評価知見を共有するには最良の形式とは限りません。効果的な普及の計画には、時期、スタイル、論調、メッセージ、出典、伝達手段、および情報成果の形式の検討が必要です。どのように情報の伝達が構成されるかに関わらず、普及の目標は、完全な開示と公平な報告を実現することにあります。このセクションでは、あなたのプログラムに一番合った普及手法を作成し、実行する上で役立つヒントを示します。

普及手段を検討する場合には、どの要因が重要か？

普及手段を作成する場合には、以下に挙げる点を注意深く検討して下さい。

- 対象となるどの受け手または利害関係者グループと知見を共有するか？
- 知見の共有に、どの形式とルートを利用するか？
- 知見の共有を、いつ、どの程度の頻度で行うよう計画するか？
- 普及手段の実行には、誰が責任を持つか？



普及への取り組みの作成と誘導のために、「普及手段用マトリックス」を使用して下さい。例として、記入済みのマトリックスを以下に示します。

プログラムに合わせて評価文書を調整すべきか？

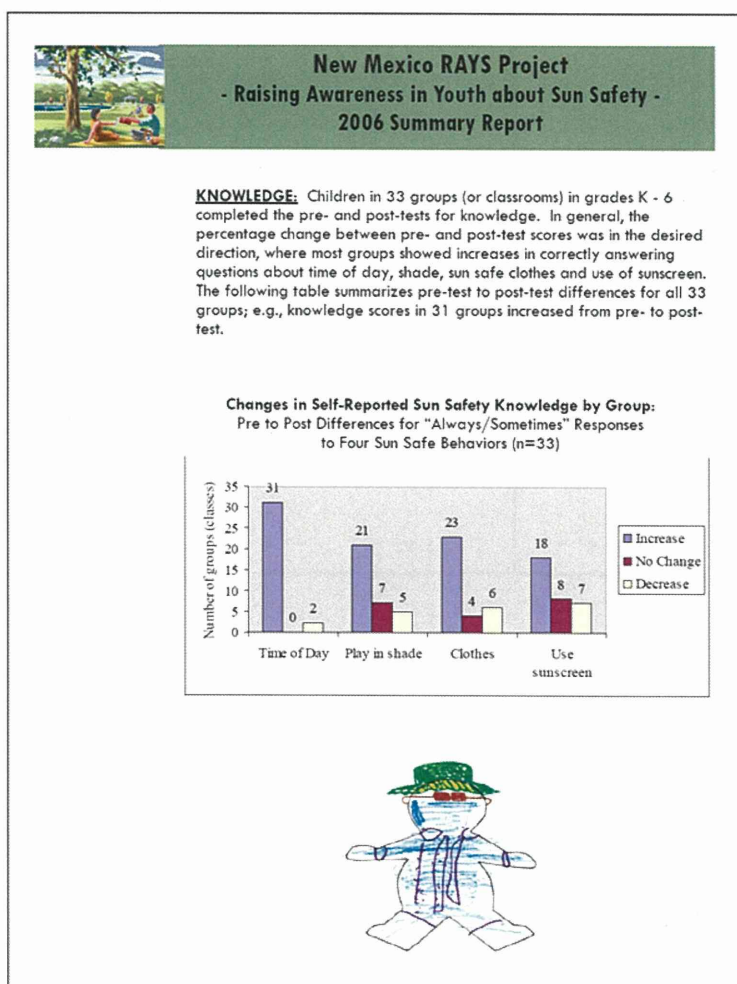
リソースが許すのであれば、プログラムは普及の取り組みを対象とする情報の受け手に合わせて調整すべきです。利害関係者はどの知見が一番興味があるか、またその利害関係者はどのように情報を受け取るのを好むかを検討して下さい。資金提供者は、詳細な評価報告を概観することを望むかもしれませんし、一方で、対象介入への参加者には、提供されるサービスの普及を促進する冊子や特定の介入の早期成果がより適切しているかもしれません。利害関係者の代表団として、CCC 連合は対象とする様々な情報の受け手に最も適する普及手段に関する有用な見識を提供することができます。

上記の「効果的な評価報告書作成のためのチェックリスト」で述べたように、評価結果を対象とする主要な情報の受け手に効果的に伝えるために、イラストとグラフを使用することができます。New Mexico RAYS Project（ニューメキシコ州の日光の安全性に関する若者認識向上プロジェクト）は、独創的で簡潔な評価知見の報告書にイラストとグラフを使う良い例を提供しています。

例：評価知見の伝達へのイラストとグラフの使用—

New Mexico RAYS Project（ニューメキシコ州の日光の安全性に関する若者認識向上プロジェクト）の2006年概略報告書

2.4



報告書全文は、ウェブサイトですぐ入手可能です。

http://cancernm.info/pdf/RAYS_Program_06_Summary_Report.pdf

普及のためのツールとテンプレート

このセクションでは、上に挙げた情報を各プログラムに当てはめるうえで役立つツールを示します。まず、白紙テンプレートのワークシートを、次に参考として記入済みのテンプレートを示します。

ツールとテンプレート：普及手段用マトリクス（白紙テンプレート）

情報の受け手	知見共有のための形式と手段	予定表	責任者

2.4

ツールとテンプレート：普及手段用マトリクス（記入例）

情報の受け手	知見共有のための形式と手段	予定表	責任者
DCPC	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト担当官への詳細な評価報告のEメールの写し 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、報告書の仕上がりの2週間以内 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム・コーディネーター
CCC 連合	<ul style="list-style-type: none"> 主な知見と提言のパワーポイントによるプレゼンテーション プログラム行動資料、評価ニュースレター、概要報告書、冊子に要約した評価報告をEメールで送付 評価の取り組みと知見を伝えるためにソーシャル・ネットワーク媒体（Twitter、ブログなど）を使用 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、対面連合ミーティングで 報告書の仕上がりの2ヶ月以内、書面として郵送またはEメールで送付 連合は、パスワードで保護されたソーシャル・ネットワーク媒体に登録し、情報を毎月受け取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム評価者 教育委員会／作業部会
市民	<ul style="list-style-type: none"> プログラムに関連する成果を衛生局またはCCCのウェブページに掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回、報告書の仕上がりの1ヶ月以内 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム・コーディネーターと衛生局の情報技術スタッフ

活用

評価プロセスの早い段階で、どの様にしたらプログラムが知見の活用を実現できるかについて利害関係者と念入りに計画するとプログラム改善の取り組みの支援に役立ちます。そのようにすると、重要な評価知見が生じたときに、時宜を得た効果的な方法で知見を利用するために利害関係者とプログラムのスタッフが協力することができます。

評価知見活用の実現には、どのステップを役立てたらよいか？

評価知見があなたのプログラムの改善に確実に使われるようにするうえで役立つ、実践的なステップがいくつかあります。以下が挙げられますが、それだけに限られません。

- 定期的な予定した評価利害関係者とのミーティングを、評価知見をリアルタイムで共有し、評価知見に基づいてプログラム改善のための提言を作成するフォーラムとして利用して下さい。評価利害関係者は、(1) 利害関係者の情報、NCCPの被交付者要件、およびスタッフと予算リソースなどのプログラムの実際的な検討に基づいて、プログラム改善のための提言に優先順位を付ける、また(2) 提言を運用可能にする、すなわち、どのように、いつ提言を実行することができるか、また誰が改善の取り組みを指揮できるか、目的にかなうよう方策をたてて熟考することでもあなたを手助けすることができます。
- プログラム管理者および／またはプログラム・コーディネーターに、定期的な予定されるスタッフミーティングに評価知見と提言のレビューを含めるように働きかけてください。管理者やコーディネーターは、プログラムのスタッフと運営に一番関連がある改善のための提言を受けてスタッフメンバーが応じることができる行動ステップを特定することができます。

- 適切である場合、組織的な実務または CCC に関連する介入の改善に評価知見を利用できる方法を明らかにするために、連合メンバーと地域の被交付者を含む利害関係者と連携して下さい。既存の連合または委員会のミーティングでこの行動計画のために時間を用意しておくこともできます。
- リソースが許すのであれば、改善提言を実行するために、プログラムのスタッフとパートナーの取り組みを調整し、文書化し、モニターするプログラムのスタッフメンバーを特定して下さい。

活用のためのツールとテンプレート

このセクションでは、上記でもたらされた情報をプログラムに適用するのに役立つチェックリストを提供します。

ツールとテンプレート：評価結果の活用実現のためのチェックリスト

- 利害関係者の会合で結果を共有し、話し合う。
- プログラム改善のための提言の優先順位付けについて、利害関係者と話し合う。
- プログラム改善のための提言の運用実施について、利害関係者と話し合う。
- 利害関係者の組織業務または CCC に関連する介入の向上のために、利害関係者が評価知見を適用可能な方法を話し合う。
- 評価結果と話し合いの要点を利害関係者の会合記録に含める。
- 評価知見と提言をスタッフの定期会合で再検討する。
- スタッフメンバーが提言を実行できる対策方法を確認する。
- 改善提言の実行のために活動を調整、記録、監督するプログラムのスタッフメンバーを確認する。

3. 評価用語の解説

CCCB 評価で期待されること

- **評価計画**：評価の指針として使われる、全体的な方法または計画を記載する文書。評価で何を行うか、どのように実施するか、誰が実施するか、いつ実施するか、なぜ評価が実施されるのか、および知見がどのように活用される可能性があるかを含みます。
- **プログラム評価**：プログラムの活動、特徴、および成果に関する情報の系統的な収集で、プログラムに関する判断、プログラムの効果の向上、および／または将来のプログラム発展に関する決定への情報提供に使われます。

評価知見の普及と活用

- **普及**：評価方法と知見を、関連する情報の受け手に、時宜を得た、公平で一貫した方法で伝える過程。

評価の計画と方法

- **帰属**：認められるある結果がプログラムによってどの程度生じるかの程度の予測で、プログラムが漸進的な影響をもたらしたことを意味します。
- **ケーススタディ**：プログラムの範囲内の特定のケースまたはプロジェクトの詳細な調査を伴うデータ収集方法。方法自体は、1つまたはそれ以上のデータ収集方法（面接やファイルレビューなど）で構成されます。
- **総合評価**：プログラムの実施と有効性の評価（すなわち、評価者は所定のプログラムについて過程と成果両方の評価を行う）を意味して用いられる用語。
- **費用便益分析**：プログラムの便益とプログラムの費用とを結びつける分析法。便益と費用は、金銭的な価格に変換されます。
- **費用効果分析**：プログラム費用と効果（影響）とを結びつける分析法。しかし、影響は金銭的な便益または費用に変換する必要はありません。
- **横断的データ**：様々な構成要素から、ある一時点に収集したデータ。

- **データ収集方法**：プログラムとその成果に関する事実を収集する方法。プログラム評価にしばしば用いられるデータ収集方法としては、文献調査、ファイルレビュー、自然的観察法、調査、専門家の意見、およびケーススタディが挙げられます。
- **記述統計解析**：定量的情報を簡潔に要約して示すために用いられる数字と表。
- **評価デザイン**：成果についての結論に達するために用いるロジックモデルまたは概念的枠組み。
- **実験デザイン（または無作為化法）**：保証しようと試みる計画法。実験デザインまたは無作為化法の例としては、乱塊法、ラテン方陣法、一部実施計画、および Solomon four group 法が挙げられます。
- **専門家の意見**：プログラムの成果の指標として、職務分野における専門家の見識と知識の利用を伴うデータ収集方法。
- **外的妥当性**：プログラムに関する結論を将来または別の条件に一般化できること。外的妥当性を脅かすものとしては、選択とプログラムの相互作用、背景とプログラムの相互作用、および履歴とプログラムの相互作用などが挙げられます。
- **ファイルまたは文書のレビュー**：プログラムファイルのレビューを伴うデータ収集方法。通常、一般的なプログラムファイルと、個別のプロジェクト、クライアント、または参加者に関するファイルの2種類のプログラムファイルがあります。
- **フォーカスグループ**：関心がある話題に関する見識、アイデアおよび見解の共有のために計画された一連の討論において、評価との関連を理由に選ばれ、訓練を受けた進行役により関与を依頼される人々のグループ。
- **指標**：プログラムが特定のアウトプットまたは成果の達成に向かった進展を示す、具体的で観察可能、かつ測定可能な特性または変化。
- **推測統計解析**：関心がある変数間の関係を確認するために、または知見を母集団全体に一般化するためにモデルを用いる統計解析。
- **非公式会話型面接**：多くの場合、プログラムの活動の継続的な観察の一部として、会話の自然な流れに依存して自発的な質問を生み出す面接手法。
- **内部妥当性**：もっともらしい可能性がある他の解釈にもかかわらず、プログラムが測定される結果によってもたらされたと（ある程度まで）断言できること。内部妥当性を脅かす要因として最も一般的なのは、履歴、成熟、死亡率、選択バイアス、回復アーティファクト、拡散、および治療とテストの模倣が挙げられます。
- **面接誤差**：面接を受ける人に対する面接者の影響。これは、面接を受ける側に特異な方法で影響を及ぼすおそれがある、面接者の身体的および心理的特性などのいくつかの要因に起因する可能性があります。
- **面接ガイド**：面接の過程で取り上げられる問題点または質問のリスト。

- **リスト抽出**：標本を選択するために、通常、電話による聞き取りで用いられる手法。聞き取り担当者は電話番号を含む抽出枠から始めて枠から構成単位を選択し、その電話番号の特定の人物または電話番号の誰かについて電話で聞き取りを行う。
- **文献調査**：研究報告書、発表論文、および書籍の特定と検討を伴うデータ収集方法。
- **縦断的データ**：ある期間にわたって、時には、特定の人物または団体に関する連続的なデータを伴って収集されるデータ。
- **測定妥当性**：測定結果が示すと意図され、また推測されることをどの程度示すかの程度。妥当な測定には系統的バイアスがない。
- **測定道具または機器**：データ収集に使用する装置（例えば、質問表、面接ガイドライン、所見記録用紙）。
- **自然的観察**：プログラムを運営している場所への現場訪問、プログラムの背景、活動そのもの、および活動に参加する個人の直接評価を伴う、データ収集方法。
- **非確率抽出法**：標本の構成単位が、母集団の各構成単位が標本で選択される確率が計算可能な非ゼロ確率を持たないように選ばれる抽出方法。
- **成果評価**：プログラムの影響を評価し、プログラムの利点と価値についての結論を示し、また今後のプログラムの方向または改善について提言を行うための系統的な情報収集。
- **一次データ**：評価チームが評価研究のために特に収集したデータ。
- **確率抽出**：無作為化の原則に基づく母集団からの構成単位の選択。
- **プロセス評価**：プログラムがどのように実施され、運営を行っているのかを明らかにし、評価するための系統的な情報収集。
- **質的データ**：数値で示される観察結果ではなく、多くの場合、知識、考え方、感じ方、および意図を伴う、カテゴリデータで示される観察結果。
- **量的データ**：数値で示される観察結果。
- **準実験デザイン**：因果推論を導くために比較群を用いるが、治療群と対照群を設けるために無作為化を用いない研究構造。治療群は介入を受ける。プログラムの漸進的な影響が推定できるように、対照群は可能な限り厳密に治療群と一致するように選択されます。
- **信頼度**：測定が所定の状況で反復して適用され、状況が適用ごとに変化しないとする場合、どの程度一貫して同じ結果を生じるかの程度。信頼度は、ある期間にわたる測定、または各所での測定の一貫性の安定性を参照することもできます。
- **標本サイズ**：標本中に含まれる構成単位の数。

- **抽出誤差**：同一の一般条件下で全数調査を行うのではなく、集団の一部を抽出し、測定することに起因する誤差。
- **抽出枠**：対象集団における全要素（例えば、国民または世帯）の完全なリスト。
- **二次データ**：別の人物または組織が、通常、進行中の評価とは別の目的のために（通常、前に）収集し記録するデータ。
- **標準偏差**：間隔尺度に関する数値的な測定結果（すなわち、データ）の広がり（尺度）。個別の測定結果が平均に対してどの程度近くに群がっているかを示します。
- **標準化形式面接**：後に面接で尋ねるその通りの質問を面接に先立って書き出して質問する、自由面接と選択回答形式の面接を用いる面接手法。
- **統計解析**：減少を予測し、変数間の関係について結論を導き、また結果を一般化するための数値データとカテゴリーデータの操作。
- **統計的に有意な結果**：観察され、偶然の変動からだけでは生じないと思われる結果。これらは、統計的検定を用いて評価することができます。
- **統計モデル**：通常は過去の研究に基づいて、特定の影響尺度から別の影響尺度へ、ある特定の影響尺度から他の影響尺度の範囲へ、または影響尺度の範囲から別の影響尺度の範囲への変換を可能にするモデル。
- **調査**：必要なデータを適切な母集団の標本から収集する計画された試み（または全数調査）を伴うデータ収集方法。適切な母集団は、プログラムの影響を受ける人々または構成要素（あるいは同様の人々または構成要素）で構成されます。

評価利害関係者

- **参加型評価**：評価過程のあらゆる面で主要利害関係者を参加させることを意図した評価方法。
- **利害関係者**：プログラムによる投資を受けた、評価の結果に興味を持つ、および／または評価結果を用いて行われることと利害関係がある、人々または団体。

評価基準

- **正確性**：プログラム、プロジェクト、または資料について述べる場合、評価が真実であるかまたは妥当であるかの程度。
- **実行可能性**：評価が、効率的な方法で実用的な方法を使用する程度。
- **妥当性**：評価が、最高の理念と理想（職業倫理、民法、道徳規範、および契約上の合意などを含む）に忠実な方法で実施された程度。